

TOPICS
1

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」 JSPS伴走チームによる2025年度岡山大学サイトビジット を開催

本学は長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の達成のため、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」において、イノベーション創出によるWell-being社会の実現に取り組んでいます。今回は12月9日に本事業の進捗状況の確認や課題を把握するために開催された日本学術振興会（JSPS）の伴走チームによる岡山大学サイトビジットについて紹介します。

今回のサイトビジットでは、JSPS伴走チームの多角的な視点で本学の取り組みに対して意見をいただくことや、各大学のリエゾン（代表者）等との事前の議論から、J-PEAKS事業全体のあり方や研究大学群の形成を加速させることなどを目指すため、施設見学は行わず、サイトビジットのすべての時間を「組織・制度改革」を中心とした説明と意見交換に充てました。

また、今回のサイトビジットの趣旨である対等な意見交換、アイデア出し、ネットワークの深化等の観点から、教職員の服装の簡素化を実施している本学だけでなく、JSPS伴走チーム、文部科学省などの関係者の皆様もラフな服装で参加しました。



取り組みを紹介する那須保友学長



進捗を説明する佐藤法仁リエゾン



質疑を行う三村由香里理事



学習環境の変革の取り組みを紹介する寺澤孝文教授



学生ベンチャーやDXなどの取り組みを紹介する野上保之教授



会場の様子

参考1：文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12723.html



参考2：「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」JSPS伴走チームによる岡山大学サイトビジットを開催（2024年度開催のサイトビジット）

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13955.html



参考3：「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」JSPS伴走チームによる2025年度岡山大学サイトビジットを開催

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14949.html



本学J-PEAKSリエゾンの佐藤法仁副理事(研究・产学共創総括担当)・副学長(学事担当)・上級URAから、大学の取り組み概要と進捗状況について紹介した後、那須保友学長から「組織・制度改革」を中心に「J-PEAKSを活用した国立大学法人経営改革」と題して説明。特に、脱教員中心の大学法人経営の実現のために、「プロが担う組織へ」の変革の取組の一部として、「高度専門職の育成」、「執行部のブレーン組織としてのURA」、「事務職員の高位登用」、「教育研究系技術職員の一元化」、「教育研究系技術職員の人事権の明確化」、「技術職員の高度化:系統別技監制度の運用」、「大学院修学支援制度の運用」、「岡山大学研究開発マネジメント人材認定制度」、「複線型人事制度」、「常勤理事の選出方法の改善」などについて詳しく紹介しました。

またイノベーション創出の取り組みとして、野上保之教授らのチームが進める「DX・総合知による、地域課題解決へのアプローチ」と、寺澤孝文教授らが進める「学習意欲・学力向上による社会変革と新サービス『マイクロステップスタディ』」についてピックアップ。地域中核・特色ある研究大学ならではの取り組みについて那須学長から説明が行われました。

その後、本学担当サポーターの名古屋大学未来社会創造機構の藤巻朗特任教授からの事前質問事項について回答。参加者らとともに活発な意見交換が長時間行われました。



参考 岡山大学 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」ホームページ
<https://j-peaks.orsd.okayama-u.ac.jp/>



○那須保友学長のコメント

今回のサイトビジットでは、岡山大学が取り組む組織・制度改革に重点が置かれました。これは、事前に各校ヘビアリングを実施し、「どのような点に关心があるか」を把握した結果に基づいています。改革内容は、他大学への横展開がしやすいものを選定。意見交換で頂いたご意見は、既存の規則であっても改善に繋げるべくブラッシュアップし、改正を検討していきます。

地域中核・特色ある研究大学、そして地方大学としての取り組みを他の地域へ展開し、大都市部大学には豊富な資源を地方へ還元する循環を促す戦略を共に考えていく方針です。わが国全体のことを絶えず考え、決断、行動します。「競争から共創へ」、「共にできることは共に」を胸に、今後も岡山大学とJ-PEAKS各大学の挑戦にご期待ください。

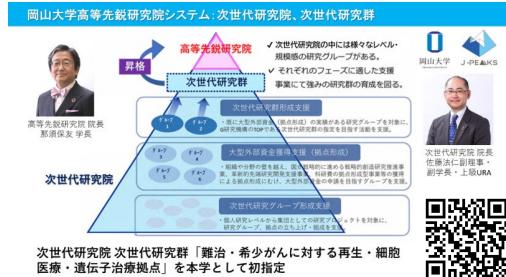


TOPICS
2

岡山大学次世代研究院の次世代研究群の認定式を開催～地域中核・特色ある研究大学として世界をリードする難治・希少がん治療の実現に向けて～

本学では「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の取り組みのひとつとして、世界と伍す研究・イノベーションの卓越と厚みを育成するシステムである「岡山大学高等先鋭研究院」を創設しています。この度、第2レイヤーである次世代研究院は次世代研究群「難治・希少がんに対する再生・細胞医療・遺伝子治療拠点」の認定式を開催しました。本学の強みのひとつである再生・細胞医療・遺伝子治療分野において、岡山大学病院の診療科および臨床・基礎医学を横断したチームを編成し、治療製剤の開発に取り組みます。次世代研究群の挑戦にご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14878.html

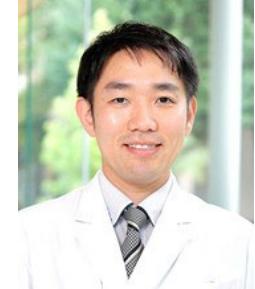
TOPICS
3

乳がん患者さんの「心の支え」を目指したAIピアソーターを開発

本学学術研究院医歯薬学域(医)医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井嬢教授(特任)(整形外科)は、乳がん患者さんの心理的サポートに特化したAIチャットボット(AIピアソーター)を開発しました。

本AIは、乳がん経験者のピアソーターとしての対話が可能であり、患者さんは時間や場所を問わず、気兼ねなく悩みや不安について相談することが可能になります。

本研究は、AIによる心理サポートを、将来的にがん患者さんの標準的なケアとして確立するための、重要な第一歩となります。J-PEAKSの外なる場での活動のひとつとして、イノベーション創出を図り、Well-being社会の実現を目指しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1470.html

TOPICS
4

2025年度「プロジェクトマネジメント基礎研修」第3回(Day3)開催～大学経営を担える人材の育成へプロジェクトマネジメントのスキルを学ぶ(完結編)～

本年度の「プロジェクトマネジメント基礎研修」の第3回となるPM基礎研修Day3を津島キャンパスの本部棟で開催し、各部局の副部局長、総合技術部の技術職員、事務職員らが講義とグループワークに参加しました。今後は残りの課題に取り組むとともに、全学の教職員が垣根を越えて連携を深めていきます。教職員のスキルアップを図るための学びを生かした取り組みを推進し、教職員が「地域中核・特色ある研究大学:岡山大学」の運営に深く関与できるようにしていきます。今後も本学の絶え間ない挑戦とそれを担う教職員の活動にどうぞご期待ください。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14881.html



TOPICS
5

那須保友学長がハイデラバードで開催された「第4回日印大学等フォーラム」に参加

那須保友学長がインド工科大学(IIT)ハイデラバード校で開催された「第4回日印大学等フォーラム」に参加。本フォーラムは、「科学技術分野における日印の連携強化に資するさらなる頭脳循環の促進」をテーマに、日本から49の大学・研究機関・企業、インドから36の大学・研究機関が参加し、ハイレベルな円卓会議や個別会談を通じて、日印間の学術・産業連携の深化が図られました。

本学はコルカタ市にある感染症拠点のみならず、インド全域にわたる大学・研究機関との連携を強化し、日印間の学術・産業連携を深化させグローバル人材育成と研究力強化を推進しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14902.html

TOPICS
6

共生型連合体全体会議を大阪公立大学で開催～大学間連携による地域課題解決と新たな地方創生の方策を議論～

「共生型連合体」の第2回全体会議を開催しました。共生型連合体は、国家戦略特区に関する大学が連携し、特区を実証フィールドとして活用しながら地域課題の解決と新たな価値創出を図る大学間連携の枠組みです。

次のアクションとして、岡山で開催予定のJ-PEAKSシンポジウムにて、各大学とともに具体的な連携テーマを整理していくことが確認されました。さらに、共生型連合体を「なくなると困る」レベルの持続的な大学間連携モデルとして確立していくことを目指すことで一致しました。引き続き、参加大学や関係自治体・企業等との連携を深め、地域の実情に根ざした課題解決型イノベーションの創出と、新たな地方創生モデルの構築を進めます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14955.html

TOPICS
7

国際原子力機構(IAEA)のBNCT Training workshopを開催

本学が国際原子力機関(IAEA)協働センターとして、BNCT分野(Boron Neutron Capture Therapy: ホウ素中性子捕捉療法)における国際的な知識共有と人材育成を目的とした「ホウ素中性子捕捉療法トレーニングワークショップ」を実施しました。今後も本学IAEA協働センターは、世界のBNCT研究開発と人材育成に貢献していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14857.html



TOPICS
8

岡山大学 R&D Showcase 2025を開催～産学官連携の深化に向け、研究シーズと社会実装の新たな可能性を提示～

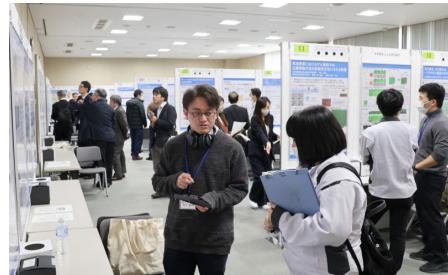
「岡山大学R&D Showcase」を開催し、研究者や学生が自身の研究成果を企業や地域社会へ発信しました。78のブースが展出され、AI医療や3D空間情報技術など多様な研究の紹介や活発な意見交換が行われました。展示終了後の交流会や共創の場である「KIBINOVE見学会」も開催され、高い評価の声が寄せられました。本学は本イベントを契機として、多様なステークホルダーとのつながりをさらに深化させ、地域社会や産業界と協働しながら、新たな価値の創出に取り組んでいきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14946.html



参考 <https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/showcase2/>

TOPICS
9

AIやHPC(High Performance Computing)を活用した い研究者・技術職員の交流の場「AI-HPCパートナ ーズ」第1回ミーティングを開催

本学は、AIおよびHigh Performance Computing(HPC)をキーワードに、研究者・技術者の交流を促進し、新たな共同研究や研究拠点形成を目指す「AI-HPCパートナーズ」の第1回ミーティングを、本学津島キャンパスの創立五十周年記念館にて、ハイブリッド形式で開催しました。

AI-HPCパートナーズは、AI・データ駆動計算・シミュレーション研究に関心を持つ研究者・技術職員が集まり、ノウハウ共有や共同研究創出を目的として設立された研究拠点です。当日は教員、技術職員、URA、コーディネーター(産学連携、学術研究)など多様な参加者約40人が集いました。



講演会後はJテラスカフェにて意見交換会を実施し、計算サーバーの導入・運用方法、HPC初心者が直面する課題、学生のプログラミング教育、今後の勉強会の要望など、多岐にわたる交流が行われました。本学はJ-PEAKSの一翼を担う研究大学として、新たな研究拠点の形成など、研究力・イノベーション創出強化を推進しています。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14892.html

TOPICS
10

KIBINOVEにUntroD Capital Japan株式会社が中四国 拠点を開設～両者で連携し、地域のスタートアップ・エコ システム形成を加速～

本学共創イノベーションラボ「KIBINOVE」に、ベンチャーキャピタルUntroD Capital Japan株式会社(以下UntroD)の中四国拠点が開設。本学は今回の拠点設置を契機として、研究成果の事業化促進や大学発ベンチャー支援を見据えたUntroDとの連携を強化し、地域のスタートアップ・エコシステムの形成のさらなる推進を図ります。J-PEAKSでもスタートアップ・ベンチャー活動をKPIとしており、さまざまな施策を戦略的に実施します。今後の取り組みにもご期待ください。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14893.html

岡山大学と株式会社廣榮堂が「きびだんご」の伝統継承と新たな価値創造へ総合的連携を開始～農学・経済学の知見を結集し、地域農業の課題解決とイノベーションに挑む～

本連携は株式会社廣榮堂の看板商品である「きびだんご」の原材料調達における課題を、本学の多岐にわたる研究シーズを用いて解決するとともに、科学的アプローチによる品質の継承と環境価値(カーボンフットプリント:CFP)の創出を目指すものです。また、生産地の変更に伴う品質変化への懸念を解消し、伝統の味を科学的に解明・継承するため、3者(岡山大学・廣榮堂・秋田県立大学)による共同研究を開始しました。

経験と勘に頼ってきた「伝統の味」をデータに基づいて継承し、さらなる美味しさの進化を目指す「ドリームチーム」による取り組みとなります。さらに、新たな顧客価値の創造に向けた取り組みとして、MS&ADインターリスク総研株式会社との共同研究により「むかしききびだんご」のカーボンフットプリントを算定しました。今後も多様な研究力を生かした地域課題の解決と、Well-being社会の実現に貢献します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14883.html



イチオシの研究設備

円偏光ルミネッセンス測定システム 日本分光・CPL-300

円偏光ルミネッセンス測定システムは、キラルな有機化合物・無機化合物・錯体・生体関連物質・高分子材料など、幅広い試料の円偏光ルミネッセンス(CPL:Circularly Polarized Luminescence)スペクトルを測定する装置です。励起状態のキラリティーに関する情報を取得でき、立体構造解析をはじめとした多様な研究に有用です。特殊測定(温度可変・磁場・LED)にも対応可能です。測定波長範囲は250～850nmです。

CPL 色素は、エレクトロニクスやバイオロジーなどの分野で様々な応用が期待されています。「キラル」で「発光性」を示す試料であれば、CPLシグナルが検出される可能性があります。該当する試料をお持ちの方は、ぜひ測定をご検討下さい。



【管理者】

学術研究院 環境生命自然科学研究域 高石和人、依馬 正
総合技術部 堀金和正

詳細は、研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFPOU)」の以下のURLをご参照ください

J-PEAKSの取組として、大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化などを通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメカ力を目指しています。



本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：cfp@okayama-u.ac.jp
参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/1413>

